

令和3年度

# 札幌市 学校教育の重点

札幌市の教育が目指す人間像  
自立した札幌人

未来に向かって  
創造的に考え、  
主体的に  
行動する人

心豊かで  
自他を尊重し、  
共に高め合い、  
支え合う人

ふるさと札幌を  
心にもち、  
国際的な視野で  
学び続ける人



札幌市教育委員会



# 札幌市の教育

札幌市学校教育の重点は幼児児童生徒の発達の段階を踏まえ、学校経営や教育課程の編成及び実施、生徒指導等に活かすために、特に重点となる施策や教育内容を示したものです。

具体的には、「知・徳・体の調和のとれた育ち（学ぶ力・豊かな心・健やかな体）」「札幌らしい特色ある学校教育」「子どもの発達への支援」「信頼される学校の創造」「教科等の枠組を越えた教育」について示しています。

全ての市立幼稚園・学校において校内研修会等で共通理解を図り、本重点を踏まえ、教職員が一丸となって創意工夫を凝らした特色ある教育課程の編成・実施及び学校運営等に取り組むことを期待します。

## 令和3年度 札幌市学校

### 令和3年度の包括的重点

- ・感染症対策を講じた学校教育の推進
- ・「小中一貫した教育」の推進（校種間連携）
- ・ICTを活用した教育の推進（情報教育）  
→ P ③

### 知・徳・体の調和のとれた育ち

学ぶ力の育成 → P ⑤

豊かな心の育成 → P ⑨

健やかな体の育成 → P ⑬

### 札幌らしい特色ある学校教育

【雪】

【環境】 → P ⑰

【読書】



## 札幌市教育振興基本計画

### 目指す人間像 「自立した札幌人」

■ 未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する人

■ 心豊かで自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人

■ ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人

### 札幌市の学校教育が目指す子ども像

#### 幼稚園段階（めばえる）

- 自分なりに考えながら物事をやり遂げる。
- 様々なことに興味・関心をもち、楽しんで取り組む。
- 先生や友達との関わりを深め、愛情や信頼感をもつ。
- 友達のよさに気づき、一緒に楽しく活動する。
- 自然と触れ合うなど身近な環境に親しみ、興味や関心をもつ。
- 発見を楽しんだり、考えたりして生活に取り入れる。

《札幌市の学校教育における子ども観・教育観》

子どもは、どの子もよさや可能性をもっています。  
 他者との比較ではなく、その子自身の成長を認めていくことが大切です。  
 子どもに寄り添い、伸びを認め、意欲を高める共感的・肯定的なメッセージを伝え、  
 子どもの成長を促していきます。

※本書では、「幼保連携型認定こども園」は幼稚園の段階に、また、「中等教育学校」の前期課程は中学校の段階に、後期課程は高等学校の段階に、それぞれ相当するものとします。  
 ※特別支援学校においては、年齢に準じた段階や児童生徒一人一人の発達の状況や特性を考慮しながら、目指す子どもの姿を設定するものとします。

教育の重点

※本冊子は札幌市公式ホームページでも閲覧できます。

子どもの  
発達への支援

特別な配慮を必要とする子どもへの教育

- 特別支援教育  
→ P 19
- 不登校支援
- 帰国・外国人  
児童生徒  
→ P 20



信頼される  
学校の創造

- 家庭や地域とともに  
進める学校づくり  
→ P 21
- 教員の資質・能力の  
向上 → P 22
- 安全教育  
→ P 23



教科等の枠組を  
越えた教育

- 進路探究学習  
(キャリア教育)  
→ P 24
- 人間尊重の教育  
→ P 25
- 国際理解教育  
→ P 26



小学校段階 (そだつ)

- 新たな課題に興味・関心をもち、進んで考えたり工夫したりする。
- 自分の目標をもち、明るく前向きな気持ちで行動する。
- 思いやりの心をもち、相手の気持ちや立場を理解する。
- 互いに認め合い、励まし合ったり助け合ったりする。
- 学校や地域での様々な活動を通して、自分の住んでいる地域や札幌のよさに気付く。
- 郷土や我が国の伝統・文化に触れるとともに、世界の人々や文化に興味・関心をもつ。

中学校段階 (のびる)

- 自ら課題に気付き、その解決に向けて必要な情報を集め、考えたり表現したりする。
- 自分の目標に向かって、希望と勇気をいただき、強い意志をもって行動する。
- 互いの個性や立場を尊重し、様々な見方や考え方について理解する。
- 友情の尊さを理解し、信頼し合う中で、互いに励まし合ったり高め合ったりする。
- 広い視野から札幌の特色を理解し、社会の一員としての自覚をもって行動する。
- 郷土や我が国、世界の伝統・文化を理解するとともに、国際的な視野から物事を考える。

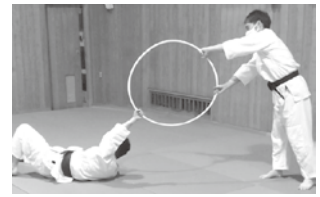
高等学校段階 (ひらく)

- 未来を切り拓くため、自らの生き方や在り方について、広い視野から考えたり、表現したりする。
- よりよい社会の実現に向けて、主体的に判断し、行動する。
- 自他の人格を尊重し、互いの考えや主張を理解するとともに、義務と責任を果たす。
- 互いの立場や意見を尊重し、高め合ったり支え合ったりする。
- ふるさと札幌の伝統・文化に対する理解を深め、社会の一員として継承・発展に努める。
- 郷土や我が国、世界の伝統・文化を尊重するとともに、国際的な視野に立って学び続ける。

## ① 感染症対策を講じた学校教育の推進

### ■ 学習内容や方法の工夫による学びの継続

- ・ 場所を分けたり時差を付けたりして、活動を少人数にするなど感染症対策を講じつつ、子どもの豊かな成長を支えていく観点で学習する内容や方法等を工夫し、教育活動を適切に実施します。



フラフープを活用した柔道の授業

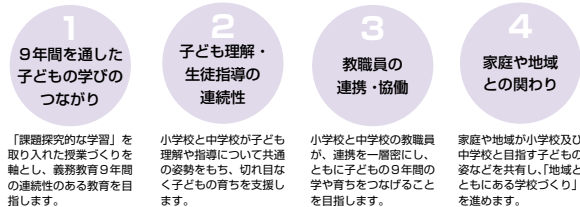
## ② 「小中一貫した教育」の推進（校種間連携）

### 札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において、「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る

※ 既存の小中学校の教育を生かし、全ての市立小中学校で行う

### 札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点



### ■ 「小中一貫した教育」の取組

- 「札幌市小中一貫した教育基本方針」に基づき、令和4年度の全面実施に向けた「小中一貫した教育」の推進
- 「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実
- 四つの視点から「小中一貫した教育」を実施することによる教育効果への期待
- 「自立した札幌人」の実現

### 校種間の連携による連続性のある教育活動の充実

#### 幼稚園段階

#### 小学校段階

#### 中学校段階

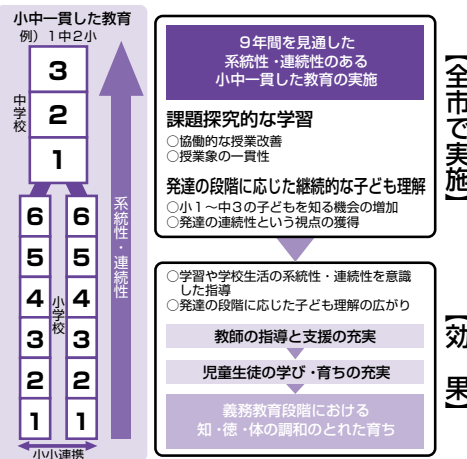
#### 高等学校段階

### ■ 幼小連携・接続の取組

- 地域の幼保小の日常的な連携及び幼保小連携推進協議会における合同の研修会、情報・実践交流、就学に際しての支援内容の引継などの実施による教育内容や指導方法の相互理解・連携
- 互いの訪問による幼児児童の交流機会の充実、教職員同士の子どもの育ちや互いの教育についての共有
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児期（学びの芽生え）と児童期（自覚的な学び）をつなぐ「スタートカリキュラム」の確実な編成・実施

### 「小中一貫した教育」

これまで推進してきた小中連携の取組を生かし、9年間を見通した系統性・連続性のある教育を



- 「小中一貫した教育」コーディネーターを配置し、推進日程の作成や学校間調整、保護者や地域への働きかけやネットワークの構築など、「小中一貫した教育」推進の仕組みづくりにあたる

### ■ 中高連携・接続の取組

- 中学生が、高等学校等での学習や生活を見通すことができるよう、学校説明会等における授業体験や部活動の見学、「市立高校プレゼンテーション・学校紹介」など、中高の連携を推進
- 高校生が、義務教育段階までに身に付けた資質・能力を生かし、描いた自己の将来像の実現を目指して、自ら学びを進めることができるような指導の充実
- 開成中等教育学校における国際バカロレアの教育プログラムを活用した課題探究的な学習の成果を公開授業や研修にて全ての市立学校と共有

### ■学級閉鎖・出席停止等の措置に伴う学習支援

- ・学習課題や教員によるきめ細かな状況把握及び支援により、子どもの学習と教員とのつながりの継続を図ります。
- ・子どもの発達の段階や各学校の実情に応じて、オンライン、オフラインによる支援を柔軟に組み合わせて支援策を講じます。その際、ICTを積極的に活用します。

## ③ ICT を活用した教育の推進（情報教育）

教育活動の様々な場面において、1人1台端末環境下での学習ツールとして活用の可能性を整理し、より効果的かつ積極的に端末を活用し、情報化の進展に主体的に対応できる基礎的な資質・能力を育みます。

「課題探究的な学習」を取り入れた授業づくりを促進するとともに、プログラミング的思考及び情報モラルを含む情報活用能力を育成する情報教育を推進します。

### ■学ぶ力の育成 ～「課題探究的な学習」を取り入れた授業の充実～

自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習の中で、「個人での学び」「集団での学び」において、ICTを有効に活用し、子どもの思考力・判断力・表現力等が活性化された充実した学び、子ども一人一人の個別最適な学びの実現を目指します。

学習形態	学習場面例	ICTの活用例
一斉学習	教員による教材の提示	画像の拡大提示や書き込み、音声、動画等の活用
個別学習	個に応じる学習	一人一人の習熟の程度等に応じた学習
	調査活動	インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録
	思考を深める学習	デジタル教材を用いた思考を深める学習
	表現・制作	ソフトを用いた資料、作品の制作
協働学習	発表や話し合い	グループや学級全体での発表・話し合い
	協働での意見整理	複数の意見・考えを議論して整理
	協働制作	グループでの分担、協働による作品の制作
	学校の壁を越えた学習	遠隔地の学校等との交流授業

### ■情報活用能力の育成

- 「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度の育成」の三つの観点を、発達の段階に応じて適切にICTを活用し、バランスよく育成
- ICTを活用する技術的な能力や、情報モラルやネット社会における参加態度の育成
- 必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力の育成
- 言語能力などとともに学習の基盤となる資質・能力として育成
- 各教科等の特質を生かして教科等横断的な視点からの教育課程の編成



端末から自分の考えを伝達する児童

### ■プログラミング的思考の育成

- 自分が意図する一連の活動を実現させるために、動きと動きに対応した記号の組合せを改善し、より意図した活動に近づけるという論理的に考える力の育成
- 小学校段階における、コンピュータに意図した処理を行うように指示する体験の教育課程への位置付け及び中学校・高等学校における指導の充実

# 学ぶ力の育成

学校での学びの質を高め、家庭と一体となって「学ぶ力」を育むことを目指して、  
**さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン**を推進します。

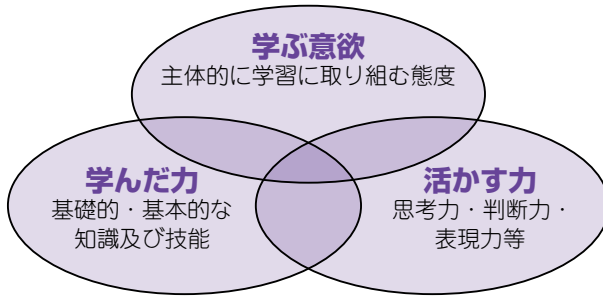
分かる・できる・楽しい授業づくりの充実

○分かる・できる・楽しい授業の実現に向けて、「学ぶ力」の育成に向けた**5つのポイント**（P7参照）を活用するとともに、次のページの2点を踏まえて、バランスのとれた指導を充実させます。

## 札幌市の教育で目指す「学ぶ力」

「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等」

### 「学ぶ力」を支える3つの力



学ぶ意欲を育む体験的な活動を取り入れた授業



ICTを活用しながら協働して課題解決に向かう授業

学校段階等間の接続及び発達の段階に応じて、目標や指導内容を明確にするとともに、

### 幼稚園段階

- 幼児の自発的な活動としての遊びの中で、好奇心や探究心、思考力の芽生えを育むために、
- ・身近な事象や周囲の環境と直接的に関わる場や時間を保障すること
  - ・幼児の興味・関心に基づいて繰り返し取り組む過程や必要感に基づく体験を大切にすること
  - ・友達の考えに触れ、新たな考えを生み出す楽しさを味わう機会をつくること
- などを大切にしなが、遊びや活動の充実を図ります。



共通の目的の実現に向けて、協働と試行錯誤する子ども

幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぐ

### 小学校・

- 子ども一人一人に、
- ・学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら学び続けようとする意欲を高めること
  - ・自ら考え表現するなどの多様な学びを経験して、思考力、判断力、表現力等を身に付けること
  - ・学び続けるための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦していけるようにすること
- などのバランスに配慮した指導の充実を図ります。

「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等」の「学ぶ力」を育成するため、「学ぶ意欲（主体的に学習に取り組む態度）」「学んだ力（基礎的・基本的な知識及び技能）」「活かす力（思考力・判断力・表現力等）」の学力の3要素をバランスよく育む教育の充実を目指します。

### ■「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

- ・自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の工夫を行います。
- ・「6つのセルフチェック」（P8参照）の活用による授業づくりの充実を図ります。
- ・小学校5・6年での少人数指導「算数に一ごプロジェクト事業」を実施します。

### ■「自分への自信につなげるきめ細かな指導」の充実

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、個に応じた指導の充実を図ります。
- ・生きて働く知識や技能の習得に向け、その活用場面を位置付けた授業の充実を図ります。
- ・一人一人のよさや伸びを認める指導と評価の一層の充実を図ります。

### 学ぶ意欲の向上

- ・知識の理解の質を高め、資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、言語活動や体験的な活動等の充実を図るとともに、1人1台端末等のICTを活用した学習活動の充実を図ります。

学びの系統化を図ることで、札幌市の学校教育が目指す子ども像の具現化を図ります。

## 中学校段階

- 小学校入学当初においては、幼児期の自発的な活動としての遊び等を通して育まれてきたことが、各教科等の学びに円滑に接続されるよう、各学校においてスタートカリキュラムを編成し、指導の工夫を行います。
- 小学校においては、学校の実情等に応じて、高学年を中心に、教科担任制を見据えた専科指導を計画的に行うことで、中学校における学習への円滑な接続を図ります。
- 中学校においては、それぞれの教科担任が教科等横断的に資質・能力を育む意識をもつことが重要であり、そのような視点から校内研修の充実を図ります。

義務教育9年間を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し、その後の学びに円滑につなぐ

## 高等学校段階

- 課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び等を効果的に取り入れるなど、指導の充実を図ります。
- 生徒の学習状況を適切に評価するとともに、指導過程や評価方法を見直して、より効果的な指導が行えるよう指導と評価の一体化等、工夫改善を図ります。
- 生徒が主体的に将来の生き方について考え、自ら描いた夢の実現のために必要な知識や能力を身に付けられるよう、進路探究学習等の課題探究的な学習の更なる充実を図ります。



グループで協議しながら課題を探究

## 学ぶ力の育成

### 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント

「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントは、札幌市の子どもに「学ぶ力」を育む上での課題の改善を図るために設定したものです。

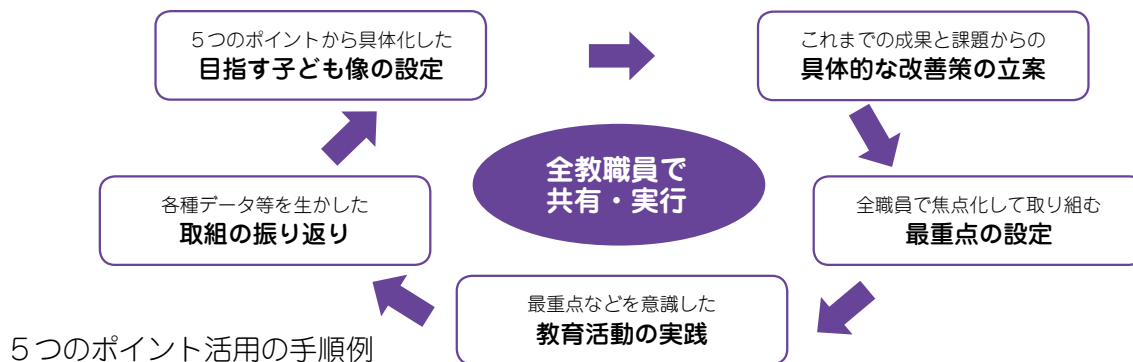
5つのポイントを学校、家庭、地域が共有することによって、三者が同じ方向性をもって、それぞれの立場で子どもの学びを支えるとともに、互いに連携を深めながら子どもを育てていくことができます。

- 1 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
- 2 「自ら学ぶ方法」と「人と学び合う方法」を身に付けられるようにします。
- 3 意味理解を伴った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
- 4 自分の「伸び」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
- 5 生活を自らコントロールする力を育みます。

### ■5つのポイントから指導方法等の充実・改善を図る

「学ぶ力」を育成するためには、学校での「学び」を充実・改善していくことが求められます。

自校の子ども「学ぶ力」の実現状況を捉えた上で、5つのポイントの視点から指導方法等の課題を明確化し、その改善に向けて作成した「学ぶ力育成プログラム」に基づく取組を全教職員で進めることが重要です。



### 検証改善サイクル（PDCA）の確立

### ■子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善

- ・各学校における教育活動の改善に反映するため、各種調査等に加えて、子どもの自己評価を生かした札幌市全体の共通指標による学習状況等の把握、分析を推進します。
- ・「学ぶ力」を子どもの姿で具体化したものが、札幌市全体の共通指標です。この指標により、子どもの学習状況等を把握・分析し、各学校における教育活動の改善に反映することができます。
- ・項目のいくつかを重点化して教室に掲示したり、1年間に複数回の自己評価アンケートを実施して学びの成果を把握したりするなど、「学びに向かう目標」や「伸びの実感を生む手だて」として役立てることもできます。



## 「課題探究的な学習」を取り入れた授業の充実

### ■「課題探究的な学習」を取り入れた授業づくり

「課題探究的な学習」を取り入れた授業の充実を図るためには、1単位時間の授業や、単元や題材を通じた長いまとまりの中で子ども一人一人の学びが深まるよう、教科等の特質を踏まえながら、各学校の子どもの実態に応じて柔軟に授業を構成することが必要です。「課題探究的な学習の展開例」については、下のような学習の過程が考えられます。

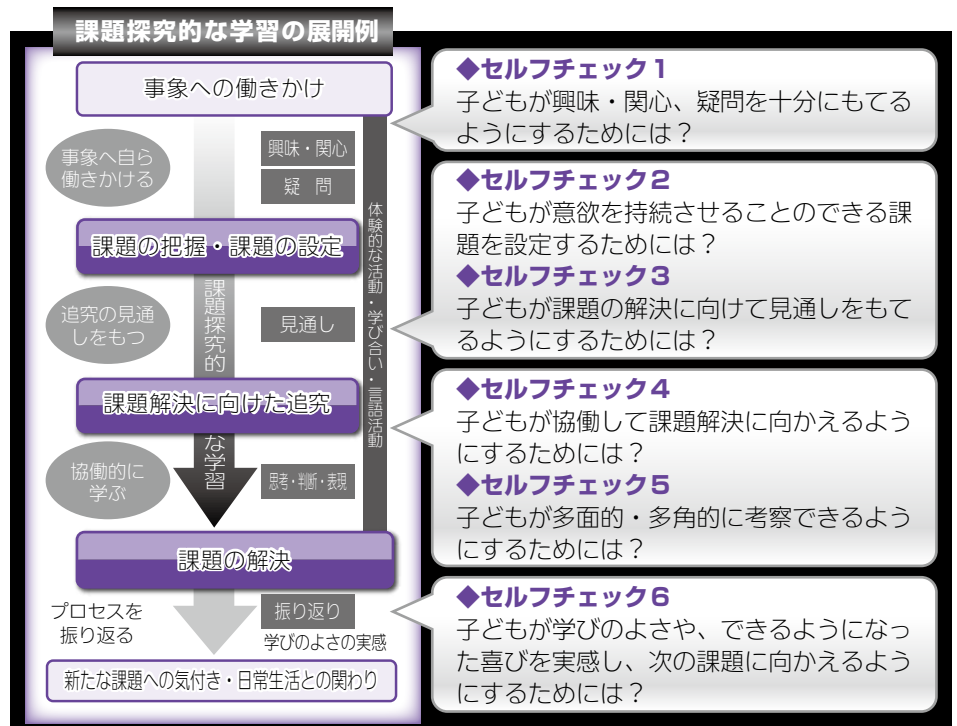
また、右下の**6つのセルフチェック**の視点から授業づくりや授業後の振り返りを行うことなど、教師自身が課題をもち、主体的に解決する姿勢をもつことが大切です。

#### 算数に一ごうプロジェクト事業

「課題探究的な学習」の充実の一環として、小学校高学年の算数を対象に、25人程度の少人数による指導を行うことにより、学習への意欲や論理的思考力を高めることをねらいとしています。

#### 【学習の過程】

- 子どもが事象へ働きかけながら、「はっきりさせたいこと」や「解決してみたいこと」（課題）を自ら見だし、課題を把握・設定する。
- 課題解決に向けた追究の方法を自分で考え、自ら追究すること、課題の解決に向けて考えを表現し合うなど、協働的な深い学びを実現する。
- 課題把握から解決までの過程を振り返り、学びのよさを実感できるようにする。



## 情報共有・連携の充実

### ■校種間・学校間連携の充実

～「小中一貫した教育」の実践による系統性・連続性のある教育の推進～

- ・「札幌市小中一貫した教育基本方針」を踏まえ、パートナー校を基本単位とした授業交流や合同研修会等の取組を推進し、指導の内容や方法の連続性・系統性を図った教育課程を編成します。

### ■学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

- ・子どもに育みたい「学ぶ力」についての積極的な情報発信を行い、家庭や地域との共通理解に基づき、学びを支える環境づくりを推進します。

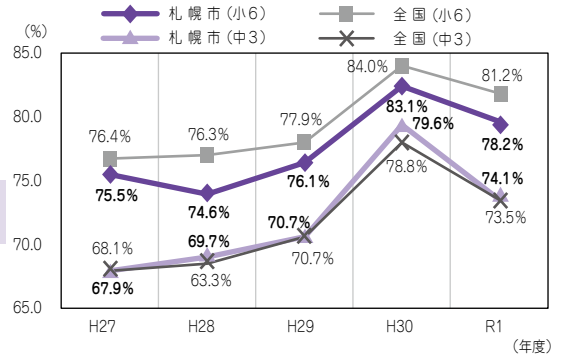
## 豊かな心の育成

子どもが互いを尊重し、支え合いながら  
よりよく生きようとする態度を育むとともに、

- ・ 他者を思いやる心
- ・ 生命を尊重する心
- ・ 自然や美しいものに感動する心

等の**豊かな心の育成**を図ります。

「自分にはよいところがある」と思う子どもの割合の推移



<資料>文部科学省、札幌市教育委員会 (R2は調査未実施)

### 「道徳教育」と「特別の教科 道徳」

道徳教育は、学校の**教育活動全体**を通じて行うものであり、自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことをねらいとしています。その要として「特別の教科 道徳（以下、道徳科）」が位置付きます。

道徳科の実施に当たっては、「札幌市教育課程編成の手引」を活用するなどして**考え、議論する道徳**の実現を目指します。

また、**学習状況及び道徳性に係る成長の様子**を見取り、そのよさを子どもに伝え、一人一人の成長を促すことが大切です。



ホワイトボードを用いて、生徒の考えを交流する道徳科の授業

学校段階等間の接続を意識して、学びの系統化を図り、

#### 幼稚園段階

- 自然などの身近な環境と十分に関わる中で得た感動を他の幼児や教師と共有し、豊かな感性を培います。
- 教師との信頼関係に支えられながら、自己を発揮する中で、他の幼児と試行錯誤して活動を展開する楽しさや充実感を味わうことができるよう、協同的な学びの機会を充実します。

○他の幼児との関わりを深め、時には葛藤やつまづきを体験し、人に対する信頼感や思いやりの気持ちなどの道徳性を培います。

○よいことや悪いことに気付かせるとともに、考えながら行動する力を育み、規範意識を培います。

#### 小学校段階

- 文化や芸術、自然の素晴らしさを直接体験する取組を充実させ、思いやりの心や美しいものに感動する感性を育みます。
- ありのままを認め、よいところを褒め、伝えていくことで自己肯定感を育みます。
- 他者から認められる機会を充実させ、役に立っているという自己有用感を育みます。

#### 道徳教育

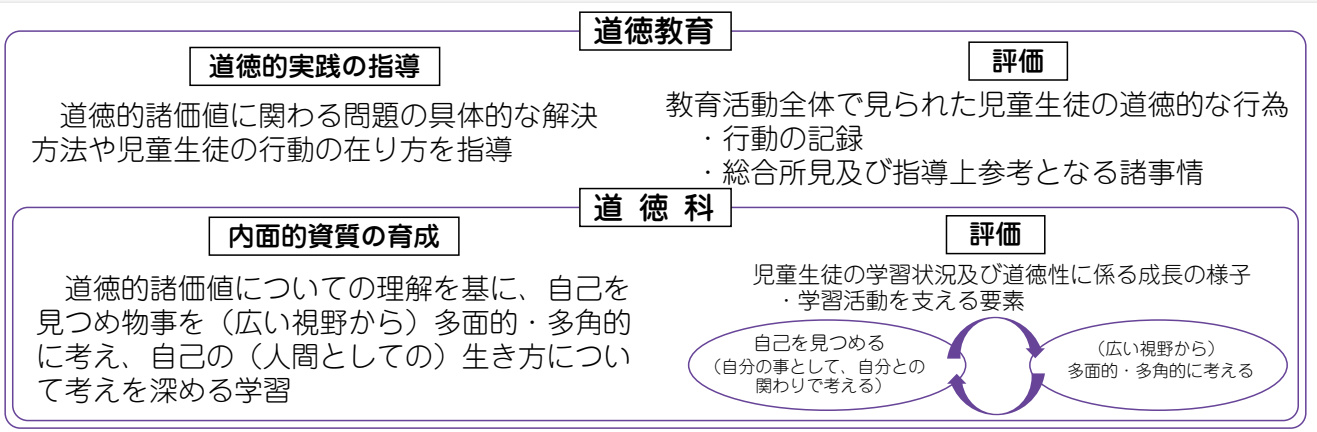
- 低学年：優しい気持ちを大切にするとともに、物事の善悪について、理解を進めます。
- 中学年：内省できる力を育むとともに、自分のよいところを伸ばそうとする意識を高めます。
- 高学年：相手の立場に立ち、思いやりの心を育むとともに、自己に対して肯定的な自覚を促します。

## 豊かな感性と社会性を育む教育の推進

- 社会に奉仕する精神を育むために、高齢者等との触れ合いやボランティア活動など、社会福祉や地域貢献についての取組の充実
- 豊かな感性を育むために、文化や芸術、自然に親しむことができる活動の充実
- 自己肯定感を高めるとともに、思いやりの心や規範意識・人間関係を築く力、社会参画への意識を育む教育活動の充実



町内会の方と一緒に取り組む地域の活動



札幌市が目指す子ども像の具現化を図ります。

### 中学校段階

- 多様な人々との触れ合いやボランティア活動等の体験活動の充実を図り、社会福祉や地域貢献についての取組を進め、豊かな社会性や人間性を育みます。
- 自他の尊重などについて学び、主体的に支え合う活動を進めるなどして、自己肯定感や自己有用感を育みます。

#### 道徳教育

- 豊かな人間関係の中で自分自身を探究し、自分が尊重され信頼される経験を通して道徳性を育みます。
- 生命の尊重、思いやりや感謝の心など生き方の根底に関わる態度を育みます。

### 高等学校段階

- 生命を尊重し、自らの義務を果たすとともに、責任を重んずる態度を育みます。
- 多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら考え、他者と対話し協働しながら、よりよい方向を模索し続ける資質・能力を育成します。

#### 道徳教育

- 教育活動全体を通じて、人間としての在り方や生き方を主体的に探究し、豊かな自己形成ができる態度や能力を育みます。
- 伝統と文化を尊重し、個性豊かな文化の創造を図る基盤としての道徳性を育みます。

# 豊かな心の育成

## 命を大切にする指導

全教職員が一人一人の子ども理解に努め、子どもが自分を大切に思う自尊感情をもち、自他のかけがえない命を大切にする指導の徹底を図ることが重要です。

- 異学年の交流活動の推進などによる自己有用感を育む学校づくり
- 他者を思いやる心や生命を尊重する心の育成
- 道徳教育をはじめ、仲間と支え合う活動や特別活動における児童会・生徒会活動など、子どもの主体的な活動や自発的・自治的な活動等の推進
- 学校・家庭・地域が手を携え、子どもの不安や悩みに気付く意識を高めるなど、子どもが安心して生活できる環境づくり

### 誰にも相談できない子どもの割合

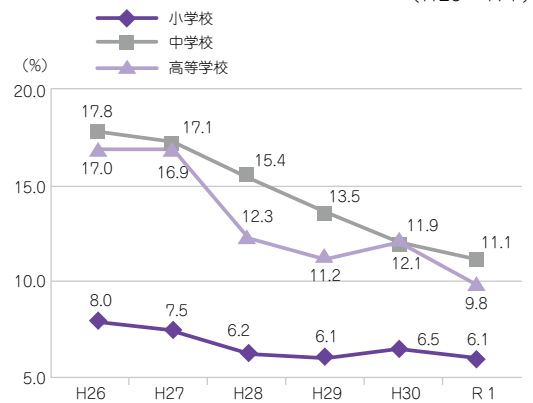
「悩みやいじめに関するアンケート調査」において「自分がいじめられたら、誰に相談しますか。」との設問に対し、「誰にも相談しない」と回答した子どもが1割程度います。

相談窓口カード等を用いた相談機関の周知や教育相談の継続など、子どもが教員やスクールカウンセラーなどの身近な大人に相談しやすい環境づくりを進めるとともに、相談することの意義についての指導等の充実を図ります。



相談窓口周知カード

「誰にも相談しない」と回答した子どもの割合の推移 (H26～R1)



<資料>札幌市教育委員会

### 「SOSの出し方に関する教育」の推進及び具体的対応

- 子どもが自分を大切に思う自尊感情がもてるような関わり
- 周囲の人々への信頼感をもち、悩みや困りを抱えた際にSOSを出すことができるような環境づくり
- 今後直面する可能性のある様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付ける教育の推進（「SOSの出し方に関する教育」等）
- 緊急時における組織的対応

### ○ガイドブック【教師用】の有効活用



教師用指導資料  
(平成28年3月発行)



教師用指導資料  
(平成30年7月発行)

#### 〈きょうしつ原則〉

- き：気付いて
- よ：よく聴き
- う：受けとめて
- し：信頼できる大人に
- つ：つなげよう

#### 〈TALK原則〉

- Tell：言葉に出して心配していることを伝える
- Ask：子どもの気持ちについて率直に尋ねる
- Listen：絶望的な気持ちを傾聴する
- Keep Safe：安全を確保する

## いじめの防止

いじめは、全ての学校・教職員が自らの問題として切実に受け止め、徹底して取り組むべき生徒指導上の重要な課題です。いじめの問題の取組に当たっては、特定の教職員が抱え込むことなく、教職員が一致協力して迅速かつ組織的にいじめの防止・早期発見・対処に努めることが重要です。

### 「学校いじめ防止基本方針」に基づいたいじめの防止・早期発見・対処

#### ■いじめに対する組織的対応

- 全ての教職員が、いじめの問題に適切に対応することができるよう、いじめの定義や学校いじめ防止基本方針の内容等の共通理解を徹底します。
- 学校のいじめの防止等の対策のための組織において、いじめの疑いのある行為等の全件について、情報を集約し**迅速かつ組織的**に対処します。
- 日頃から校内において児童生徒の情報を共有するとともに、進級・進学・転校等をする際には、**いじめ等の情報を確実に引き継ぎ**、児童生徒の情報をきめ細かく把握します。
- 「学校いじめ防止基本方針」を、児童生徒や保護者等に周知し、定期的に評価・見直しを実施します。



いじめ問題への対応  
(平成27年4月発行)

#### ■児童生徒が主体となるいじめの防止の取組

- いじめにあたる行為について学校全体で共有したり、児童生徒がいじめの問題について考え、意見を述べ合う機会を設けたりするなど、いじめの防止に向けた学習に取り組みます。
- 児童会・生徒会によるいじめ撲滅の宣言や標語づくり等、全ての児童生徒がいじめの防止について考え、主体的に取り組みます。

#### ■不安や悩みを抱えた子どもに対する教育相談体制の構築

- 全学校に配置されているスクールカウンセラーの活用の一層の充実を図ります。
- 教育委員会による記名式の「悩みやいじめに関するアンケート調査」や学校独自の無記名式等のアンケートを実施するなどし、アンケート調査の結果に基づいた担任等による教育相談により、いじめの疑いのある行為等を把握します。
- 児童生徒が発するわずかなサインに気付き、声をかけ、相談の機会を積極的に設けるなど、教職員がいじめの疑いのあるものも含め積極的に情報を得て、教育相談を実施します。



医療機関の方々に手作りメッセージカードを作成することによって、感謝の気持ちを伝える活動

#### 新型コロナウイルス感染症による差別や偏見を生まない指導

- 感染者、濃厚接触者とその家族、医療従事者等に対する差別や偏見につながるような行為は、許されないことを指導します。
- 誰もが感染する可能性があることや、感染者等を責めるのではなく、思いやりの気持ちをもつことなどを指導することが大切です。
  - 医療従事者や社会活動を支えている人たちに、目を向ける指導が求められます。

## 健やかな体の育成

学校での体育・健康に関する学びの質を高め、市民ぐるみで「健やかな体」を育むことを目指して、**さっぽろっ子「健やかな体」の育成プラン**を推進します。

### 各学校における「健やかな体」育成プログラムの改訂・実施

各学校が、自校の子どもの状況を踏まえて「健やかな体」育成の課題を明確化し、体育・健康の両面のバランスのとれた指導の充実を図ります。

#### ■体育に関する指導の充実

##### ■体力・運動能力の向上

- ・体育・保健体育の授業の充実（（課題探究的な学習、感染予防に配慮した学習の推進、ICT（1人1台端末等）を活用した学習活動の充実））
- ・学校における運動機会の充実を図る環境整備の推進
- ・体力向上に係る調査研究に基づいた取組の推進（運動習慣の二極化傾向の改善、持久力・敏しょう性の向上への取組、なわ跳び運動の取組の充実・発展など）
- ・札幌らしいオリンピック・パラリンピック教育の推進（P15、16参照）



小学校のマット遊びで、動きを揃えて倒立する工夫を促す授業

##### ■部活動の質的充実

- ・「札幌市立学校に係る部活動の方針」に基づき、休養日の設定や外部人材の活用を図るなど、持続可能な体制の整備
- ・課題探究的な学習の趣旨を踏まえた活動の改善

#### ■健康に関する指導の充実

##### ■基本的な生活習慣の確立

- ・健康的な運動・生活習慣づくりの推進（養護教諭、家庭・地域との連携強化）
- ・がん教育の推進（外部講師の活用促進）

##### ■食育の推進

- ・健康的な望ましい食習慣の啓発（「食に関する指導の手引」の活用、栄養教諭・栄養士との連携強化）
- ・食と環境を結び付けた学習の充実（フードリサイクルによる学習の充実）

##### ■性に関する指導の充実

- ・発達段階に応じた性に関する指導の充実
- ・「性に関する指導の手引」の活用
- ・「命を大切に作る指導」と関連を図った指導の充実

### 心身ともに健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現へ

学校段階等間の接続及び発達の段階に応じて、目標や指導内容を明確にすることで、学びの

#### 幼稚園段階

- 戸外で解放感を味わいながら思い切り活動したり、様々な活動に親しむ中で体を十分に動かしたりして遊ぶ機会を充実します。

「**幼児期運動指針**」（平成24年3月文部科学省通知）に基づく取組の推進

- 園生活を通して生活のリズムを整えるとともに、家庭と連携し、身の回りの清潔、衣服の着脱、食事、排泄等の基本的な生活習慣づくりに努めます。
- 先生や友達と和やかな雰囲気ですべたり、野菜などを育てたりする中で、様々な食べ物への興味・関心を広げ、進んで食べようとする気持ちを育てます。

#### 小学校段階

- 体育科の授業を通して、体を動かす楽しさや喜びを味わうことができる基礎を培います。また、なわ跳びの取組や休み時間の遊びの充実を図るなど、学校全体で体力向上の取組を推進します。

- 体育科や道徳科、特別活動等の学習を通して、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の保持増進や自他の生命を大切にする態度等を育みます。

- 給食の時間や教科・特別活動等の学習において食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けていくための基礎を培うことができるよう、食に関する指導の充実を図ります。

「生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに、積極的に心身の健康の保持増進を図る資質や能力」を育成するため、「健やかな体づくりへの意欲（主体的に健康の保持増進を図る態度）」「学んだ力（運動、健康、安全に関する基礎的・基本的な知識及び技能）」「活かす力（学んだ力を日常生活に活かす思考力、判断力、表現力等）」の三つの力をバランスよく育む教育の充実を目指します。

## 検証改善サイクル（PDCA）の確立

### ■「健やかな体」の育成に係る取組の検証方法の具体化

自校のプログラムに基づく取組を定期的に検証する手だてを明確にすることで、課題を具体的に把握するとともに、子どもの伸びを捉えることで、子どもの実態に応じた指導方法等を工夫改善します。

#### （取組の具体的な検証方法例）

「体育の時間を除いた1週間あたりの総運動時間が60分未満の児童生徒の割合」を把握

- ・札幌市平均→男子7.5%、女子12.0%
  - ・自校平均→男子〇〇%、女子〇〇%
- （※運動機会が少ない児童生徒の要因を明らかにできると、改善策に生かせる。）

#### （改善策の具体例）

##### 授業改善

- ・感染予防に配慮しながら、運動を楽しめる授業展開の工夫
- ・どの子ども運動の楽しさや喜びを味わえる手だての工夫
- ・課題探究的な学習の充実

##### 運動環境設定

- ・体育、保健体育の学習と関連のある取組ができる場を休み時間等に設置
- ・放課後等を活用した、部活動未加入生徒の運動機会の創出

## 情報共有・連携の充実

### ■学校・家庭・地域が一体となった「健やかな体」育成の推進（P15、16参照）

子どもに育みたい三つの力を学校・家庭・地域が共有し、子どもの体育・健康に関する学びを支える体制づくりと取組を推進します。

### ■校種間・学校間の連携による教育活動の充実（P3参照）

指導内容、取組の連続性や系統性を重視して教育課程を工夫改善します。



「がん教育」において医師と連携した保健の授業

系統化を図り、札幌市の学校教育が目指す子ども像の具現化を図ります。

### 中学校段階

- 保健体育科の授業を通して、積極的に心身の健康の保持増進を図る資質・能力を育むとともに、健康安全・体育的行事や生徒会活動の工夫、運動部活動の質的充実などにより、運動やスポーツに対する興味・関心を高めます。
- 保健体育科や道徳科、特別活動等の学習を通して、心身の健康を保持増進する実践力を育むとともに、自他の生命を大切にする態度等を育みます。
- 給食の時間や教科・特別活動等の学習において食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることにより、生涯にわたって健やかな心身を育てていく基礎を培います。

### 高等学校段階

- 主体的に運動やスポーツを継続することができるよう、実生活に取り入れられる「体づくり運動」を行うなど、保健体育科授業の工夫・改善を図るとともに、体育的行事や生徒会活動等を積極的に活用し、自ら進んで運動に親しむ態度等を育みます。
- 高校生を取り巻く社会環境の変化と生活習慣の実情を踏まえ、保健の学習及び健康・安全に関する指導の充実を図り、性に関する正しい知識を身に付けるなど、自他の心と体を大切にする態度を育むとともに、生涯にわたって積極的に心身の健康の保持増進を図っていく資質・能力を育みます。

## 健やかな体の育成

各学校において、「健やかな体」の育成に向けた取組を効果的に推進するためには、その達成に向けた取組について、以下の四つの視点から、ICT（1人1台端末）の活

### カリキュラム・マネジメントの四つの「視点」

#### ■教師と子どもとの共有

- ・「健やかな体」をつくる目的の理解を深め、子どもの意欲を引き出します。
- ・感染予防に配慮するとともに、体育・健康に関する課題を、子どもが自ら発見し、目標をもって「健やかな体づくり」に取り組める手だてを講じます。
- ・子どもの活動や取組について、適切な評価を行うことにより、子どもが自分の伸びを実感します。

#### ■校内における教師間の共有

- ・目標や取組の重点を全教職員で確認し、共通理解を図ります。
- ・取組の成果と課題を定期的に確認し、適宜改善しながら学校全体で取組を進めます。

#### 実践例「全教職員で指導体制を工夫した取組」

子どもの日常生活における運動量について、歩数計での調査や生活習慣アンケートによって明確にした課題を校内の教師間で共有し、子どもが自らの課題の改善を目指した活動を考えることを促すとともに、運動の日常化への意欲を引き出す環境を整備する取組



生徒会活動と関連付けて全学級でダンスに取り組む様子

#### 実践例「ボールゲーム」

子どもの発達の段階や技能の習熟の程度などに合わせて、パスの出し方や受け方の工夫を促し、子どもが得点する喜びを味わえる授業

- 例) ・攻撃2or3人、守備1人
- ・守備者がいるゾーンはパスを転がして通す。
  - ・パスを通せたら、的（ま）に向かって思い切りシュートができる。



ボールの出し手と受け手で、パスの通し方を工夫している様子

## 札幌らしい特色ある学校教育の推進・健やかな体の育成

### 札幌らしい「オリンピック・パラリンピック」

#### ■「ふるさと札幌」を心にもつ学び

- ・全校に配付している副教材や教師用指導資料、実践事例集を活用し、スポーツの意義や価値等に触れ、冬季オリンピック大会を開催した札幌市の歴史と伝統を踏まえた、「ふるさと札幌」への思いを心にもつ学びを充実します。
- ・オリンピック・パラリンピックの理念を基盤として、他者との共生の思いをもちながら生涯にわたって運動やスポーツに楽しむ態度の育成を図ります。



小学校用副教材



教師用指導資料



学校・家庭・地域の連携が必要です。「健やかな体」育成プログラムの目標や重点と、用を図りながら、カリキュラム・マネジメントを充実させていくことが重要です。

### ■学校と家庭・地域・外部人材との共有

・目標や取組の重点について、家庭や地域、外部人材と共通理解を図り、協力しながら取組を充実させていきます。

### 実践例「助産師を活用した性に関する指導の充実」

助産師を講師として活用し、生命を尊重する心、自他の心と体を大切にする態度、性に関する正しい知識をもって適切に行動する力を育むことを目的として、生徒の実態に応じた「性に関する指導」の充実を図る取組



助産師による講演

### ■学校間の共有(「小中一貫した教育」の視点)

・効果的な取組を積極的に発信・受信します。学校間(幼小・小小・小中など)で取組を交流し、成果や課題を見いだした上で、連続性・発展性を重視して取組を工夫改善します。

例) 幼児児童生徒の交流、教職員の授業交流や合同研修、小中パートナー校で一貫した「健やかな体」育成プログラム

### 実践例「小中パートナー校で連携して『健やかな体』の育成を図る取組」

「小中一貫した教育」の視点で、パートナー校間で「健やかな体」の育成に係る地域の課題を明らかにするとともに、課題の改善に向けた9年間を通じた計画の作成と取組の実施

#### からだ 心身ともに健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現に向けて

- 体育科、保健体育科の授業を基盤に、9年間を通してたくましい体を
- 授業を除いた1週間の総運動時間60分未満の割合を札幌市平均以下に
- 家庭、行政との連携により、望ましい食生活の向上を図る
- 命を大切にする指導と関連を図った「性に関する指導」の充実
- 家庭と地域との連携を強化し、健康的な生活習慣づくりの推進

- 体育に関する指導の充実
- 運動実践の定着(数値目標)
- 食育の推進・充実
- 性に関する指導の充実
- 健康に関する指導の充実

パートナー校のランドデザインへの「健やかな体」育成の取組の位置付け

## 「教育」の推進

### ■関連施設、人材を活用した体験的な学習

・スポーツ関連施設を活用した体験的な学習やオリンピックなどの大会に参加した選手を招いた学習等、体験を重視した取組の工夫を図ります。



オリンピック・パラリンピック関連施設である札幌オリンピックミュージアム



オリンピックを開催した札幌について学ぶ児童

## 札幌らしい特色ある学校教育の推進

「札幌らしい特色ある学校教育」は、【雪】【環境】【読書】を中核をなす三つのテーマとして、全ての園・学校が共通に取り組むものです。札幌の素晴らしい自然環境・人的環境・文化的環境などを生かしながら、体験的な活動や、生涯にわたり学び・向上し続けようとする意欲を培うための基盤となる学習活動を教育課程に明確に位置付け、知・徳・体の調和のとれた学びを推進します。取組開始から10年を経て、令和元年度から、取組の一層の充実を図るため、「幼・小・中・高のつながりを意識する視点」と「発信」を重点項目としてリニューアルしました。

→参考 HP「札幌らしい特色ある学校教育の推進について 報告書」(平成30年札幌らしい特色ある学校教育に係る検討プロジェクト)

### 札幌らしい特色ある学校教育の中核をなす全ての園・学校が

#### 雪国札幌を考える【雪】

札幌の大切な特色の一つであり、「札幌らしさ」を学ぶための貴重な資源である「雪」を通して、ふるさと札幌への思いを強め、雪に親しみ、雪と共生しようとする心を培います。



#### 未来の札幌を考える【環境】

「環境首都・札幌」宣言に基づき「さっぽろ地球環境憲章」を制定した札幌の市民として、四季折々の美しい自然と豊かな文化を次世代に伝え、地球と札幌のよりよい環境を創造しようとする心を培います。

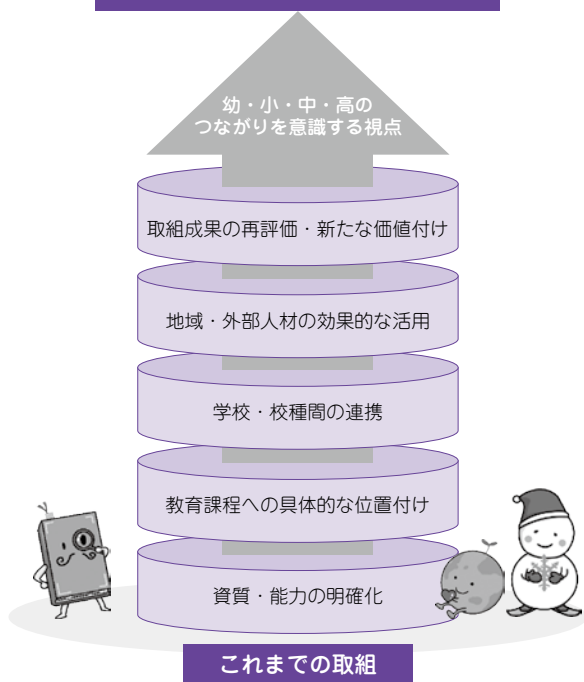


★これまでの取組成果から、教育界の動向や社会情勢の変化などを踏まえた広がり、

- ・体力向上の視点から
- ・SDGsの考え方から
- ・オリンピック・パラリンピック教育から (P 15 16 参照)
- ・教科等横断的な視点から

### 幼・小・中・高のつながりを意識する視点

#### 取組の一層の充実



これまでの取組

#### 1 つながり意識する視点について

異校種間で情報共有や連携した取組を進めるには、つながりの視点を具体的にもつことで、学年段階や校種間の違いによる子どもの学びや育ちの側面から、活動内容等を整理し直すことにより、学習効果の最大化が期待できます。

#### 2 つながり視点の具体例

資質・能力の明確化  
教育課程への具体的な位置付け  
学校・校種間の連携  
地域・外部人材の効果的な活用  
取組成果の再評価・新たな価値付け

#### 3 つながり視点の活用例

取組を進めていくため、年度ごとや【雪】【環境】【読書】ごとに、具体例を参考として、重点テーマを設定するなどの方法が考えられます。

具体については、HP「札幌らしい特色ある学校教育の推進について 報告書」(平成30年札幌らしい特色ある学校教育に係る検討プロジェクト)を参照

子どもたちが将来、身近な地域や札幌をはじめ様々な地域や国で活躍していくためには、国際的な視野をもつとともに、ふるさと札幌への思いを心にもつことが大切です。

※「ふるさと札幌を心にもつ」とは、札幌で学び、生活した経験をもつ人々が、札幌を離れたとしても札幌を心のふるさととして誇りをもつことを表しています。

### ■ふるさと札幌を心にもつ学び

札幌の自然環境・人的環境・文化的環境などの特色を生かした体験的な活動に取り組むとともに、札幌市民憲章をはじめ、札幌の歴史・文化・自然・環境・公共等への理解を深める学習を行うことにより、札幌の特色や魅力について学ぶ機会を充実します。

## 共通に取り組む三つのテーマ

### 学びの基盤となる【読書】

「読書」により言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにするとともに、「知的好奇心」をふくらませ、一生涯にわたり学び続けようとする心を培います。



## 深まりへのヒント（アプローチの例）★

- ・多様な人との関わりや文化的な施設などの社会的環境から

## 発信

### 1 学校からの発信

他校への発信、他校種への発信、地域への発信、保護者への発信（HP、学校便り、発表会等）

### 2 幼児、児童、生徒からの発信

学びの成果（自己の成長）の発信

【雪】【環境】【読書】で育成した態度、思考力・判断力・表現力、知識・技能を自己表現できる力につなげます。

### 3 「発信」とコラボレーション（つながり）の例

- (1) 【雪】【環境】【読書】のつながり
  - ・【読書】を土台とした【環境】もしくは【雪】の取組成果の発信
  - ・【雪】【環境】【読書】の関連を図った取組成果の発信や、それぞれの取組成果を総合的に発信
- (2) 校種を超えた子どもや教職員のつながり  
異校種間での幼児児童生徒による発信による子どもや教職員のつながり
- (3) 保護者や地域とのつながり  
保護者や地域の方への【雪】【環境】【読書】の取組内容や成果の発信

## ■学校図書館の利活用

読書センター

学習センター

情報センター

課題探究的な学びを効果的に進める  
基盤としての機能の充実

※札幌市では、司書資格や図書館実務経験をもつ市民から募集した学校司書の配置（中学校全校）や、学校図書館ボランティアの派遣、寄託図書整備などによって、学校図書館運営の充実を図ります。

※学校長を館長とし、司書教諭（学校図書館担当者）をはじめとした教職員、学校司書、学校図書館ボランティアが連携するなどの組織的な活用が重要です。

## ■学校におけるSDGsへのアクション

SDGsの理念である持続可能な社会を築くためにどのような行動ができるかを、子どもと共に考え、三つのテーマと関連させて取り組むことも考えられます。

発信から情報共有へ

- ・情報共有することで、「幼・小・中・高のつながりを意識する視点」を生かしやすくなります。
- ・保護者や地域の方に、学校の取組を理解してもらうことができ、協力が得やすくなります。

表現活動を通すことで、  
確かな力の一層の育成

- ・子どもの一層の成長が期待できます。



# 特別な配慮を必要とする子どもへの教育

子ども一人一人の発達を支える視点から、障がいのある子ども、不登校の子ども、海外から帰国した子どもや日本語の習得に困難のある子どもなど、特別な配慮を必要とする子どもへの教育を推進します。個々の実態に応じた指導内容やICTを活用するなどの指導方法の工夫を、学校として組織的かつ計画的に行うことで、特別な配慮を必要とする子ども一人一人の教育の充実を目指します。

## 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育

「共生社会」の形成に向けて、障がいのある子どもと障がいのない子どもが、可能な限り共に学ぶことに配慮しつつ、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫を、組織的かつ計画的に行います。

### ■子ども一人一人の教育的ニーズに応じる連続性のある多様な学びの場

子ども一人一人の教育的ニーズに応じた「学びの場」において特別支援教育を進めるとともに、就学時に決定した「学びの場」は固定したものではなく、その時点での子どもの発達の程度や適応の状況等を踏まえて柔軟に変更できることについて、学校と保護者が共通に認識することが大切です。

#### ◇通常の学級

学びのサポーターを活用したり、特別支援教育巡回相談員の助言を生かしたりしながら校内の支援体制を充実させ、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を行います。

#### ◇通級による指導

在籍している通常の学級と連携を図りながら、特別支援学校学習指導要領に示される自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行います。

#### ◇特別支援学級

特別支援学校学習指導要領に示される自立活動を取り入れ、子どもの実態に応じて、各教科の目標や内容を下学年の目標や内容に替えたり、知的障がい者である子どもに対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、特別の教育課程を編成します。

#### ◇特別支援学校

多様な障がいの状態や特性に応じた指導内容・指導方法の工夫を行うとともに、小・中学校等への相談支援など、特別支援教育に関するセンターとしての役割を担います。



視線入力装置を活用した自立活動の指導

### ■交流及び共同学習の推進

障がいのある子どもと障がいのない子ども双方の社会性や豊かな人間性を育むために、交流及び共同学習の一層の推進に努めます。

### ■障がいのある子どもへの合理的配慮

障がいのある子どもに対して、過重な負担のない範囲で、教育活動への参加の機会を確保するために必要かつ適当な変更・調整を行う「合理的配慮」を行い、学習活動の充実を図ります。

（「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」に係る

「札幌市立学校職員における対応要領（理念・事務手順編）」及び「別冊 取組集」参照）

### ■個別の教育支援計画を活用した切れ目ない指導・支援の充実

「サポートファイルさっぽろ」を活用し、学校卒業後までを見通した「個別の教育支援計画」の作成、活用を進め、保護者や関係機関と連携して、切れ目ない指導・支援の充実に努めます。

#### 【サポートファイルさっぽろ】

保護者や本人が学校や医療機関などに相談する時に、状況などを説明するために活用したり、関係者が本人の個性や特徴、これまでの経過などを共通理解し、自立に向けた手だてを共有したりすることにより、切れ目ない支援を受けることをサポートするための札幌市保健福祉局が作成したツール。本市では、平成29年1月、「サポートファイルさっぽろ」を個別の教育支援計画の基本様式として定め、活用を推進しています。



サポートファイルさっぽろ  
(平成26年4月発行)



個別の教育支援計画の  
作成・活用  
(平成26年10月発行)

## 新たな不登校を生まない未然防止の取組と組織的・計画的な不登校支援

### ■未然防止～新たな不登校を生まない学校づくり

- 児童生徒にとって、「心の居場所」と「絆づくりの場」となるような学校づくりを行います。
- 学業不振や新型コロナウイルス感染症による登校不安等、児童生徒の状況に応じて柔軟な対応を行います。
- 日常的に不登校の予兆をキャッチし情報共有するとともに、教育相談を実施します。

### ■早期発見・早期対応～チーム体制による迅速・丁寧な初期対応

- 前年度の欠席状況等を小中学校間（パートナー校）や学年間で丁寧な引継を行い、不登校が心配される児童生徒を把握しておきます。
- 欠席「1日目 電話」「2日目 手紙」「3日目 家庭訪問」等、迅速に対応します。
- 担任だけで抱え込むことがないよう体制を整え、支援の方針等、情報共有を図ります。

### ■将来の社会的自立に向けて～長期化への対応と保護者支援

- 継続的な関わりによって児童生徒の状況や変化を把握し、「別室登校」や「放課後登校」など、個々の状況に応じた学習支援や相談支援等を行うことができるよう努めます。
- 校内学びの支援委員会やケース検討会議を通して、支援の手だてや役割を明確にし、定期的に情報を共有します。
- 日頃から学校全体で、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努め、保護者の困りに寄り添い、関係性を築きます。
- 教育相談室や教育支援センター等の関係機関について保護者に説明するとともに、民間施設を含め、関係機関につながった際には連携を図るよう努めます。

### ■学校復帰の兆しが見えたときの対応

- 子どものペースに合わせた学校復帰への手だてを保護者・本人に提案するとともに、安心して登校できる環境を整え、全教職員が「同じスタンス」「温かい雰囲気」で迎え入れます。
- 学校復帰のみをゴールと捉えるのではなく、保護者と連携を図りながら支援を継続します。

## 帰国・外国人児童生徒等に対する教育の充実

海外からの帰国や来日などにより、日本語指導が必要な子どもに対して、一人一人に応じた日本語指導計画を作成し、教師間及び日本語指導協力者と子どもの様子を共有しながら指導します。また、日常生活や学習に必要な言葉の習得に係る指導方法や教材を工夫・改善していくなど、きめ細かな支援の充実を図ります。



対象児童への個別指導

### ■不登校児童生徒、障がいのある児童生徒及び日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対する支援計画の統合について

不登校児童生徒、障がいのある児童生徒及び日本語指導が必要な外国人児童生徒等についての支援計画を一つにまとめて作成する場合は、「サポートファイルさっぽろ」を基本様式としながら、必要に応じて「サポートファイルさっぽろ」の書式を一部変更したり、平成30年10月22日付け通知「不登校児童生徒、障がいのある児童生徒及び日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対する支援計画を統合した参考様式の送付について」の参考様式「児童生徒理解・支援シート」の必要なシートを加えたりすることが考えられます。

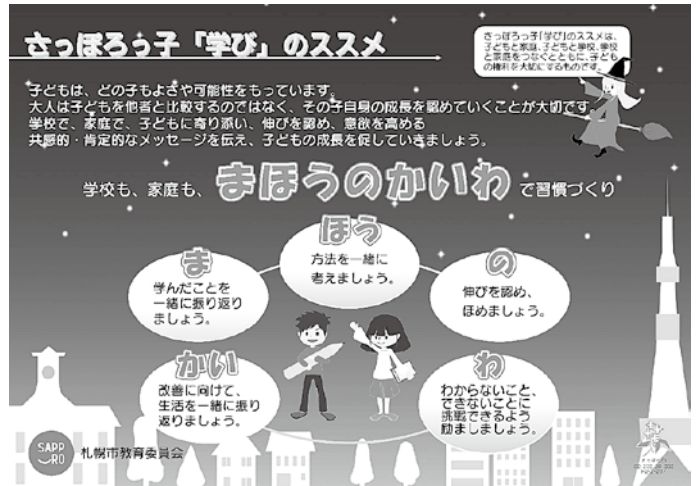
## 家庭や地域とともに進める学校づくり

### さっぽろっ子「学び」のススメ

さっぽろっ子「学び」のススメ（【幼児版】を含む）は、園や学校・家庭・地域が一体となって、子どものよさや可能性を認め、励まし、支える関わりを通して子どもの習慣づくりを進める指針となるものであり、学校と家庭・地域とをつなぐものです。

さっぽろっ子「学び」のススメでは、「学ぶ力」育成に向けた5つのポイントを家庭向けに具体化し、その頭文字を取って「まほうのかいわ」としています。学校・家庭・地域が相互に協力し、5つのポイントから、子どもの学習習慣・運動習慣・生活習慣づくり（【幼児版】は「学びの土台づくり」）を支えることによって、子どもが自ら目標をもち、粘り強く取り組むことができるようになることを目指しています。

子どもへの望ましい関わり方について共通理解を図るため、園や学校からの便りで、さっぽろっ子「学び」のススメの趣旨を伝えるほか、子どもや保護者との面談、学級懇談会やPTA集会で話題に挙げるなど、一年間を通じた活用が可能です。活用方法を工夫して学校、家庭、地域の三者が趣旨を共有し、連携して、子どもの成長を認め、自己肯定感や向上心を高めていくことは、子どもの権利を保障する取組としても重要です。



### 学校評価の活用

各学校においては、教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを学校評価と関連付けて実施することが重要です。

- 目指す子ども像や学校像を家庭・地域と共有するとともに、その達成に向けた教育活動、学校運営の状況について、積極的な情報提供に努めます。
- 教育目標等を達成するために必要な評価項目・指標等を精選して設定し、教育活動、学校運営の状況について自己評価を行うとともに、保護者や地域住民の意見も反映して改善につなげます。



学校評議員等に学校運営方針を説明

### 家庭や地域社会との連携及び協働

各学校においては、家庭や地域の人々とともに子どもを育てていくという視点に立ち、家庭、地域社会との連携を深め、学校内外を通じた子どもの生活の充実と活性化を図ることが大切です。

- 家庭や地域社会の人々と意思疎通を図り、地域の教育資源や学習環境を積極的に活用します。
- 学校での学びを生かして、地域の様々な人々との世代を越えた交流を図ります。
- 「小中一貫した教育」のパートナー校で、学校関係者評価委員を共通化したり、地域人材の調整をしたりするなど効果的、効率的な連携及び協働に努めます。



地域の農家の方と水田を観察する中学生

# 教員の資質・能力の向上

教員一人一人にとって、教職生活全体を通じて実践的指導力等を高めるとともに、社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、各学校において「学び続ける教員」として主体的に研修に取り組み、教員一人一人の職責、経験及び適性に応じた、資質・能力の更なる向上に向けた取組を推進します。

## 札幌市の求める教員像

- 教育者として、強い使命感・倫理観と、子どもへの深い教育的愛情を、常にもち続けている教員
- 教育の専門家として、実践的指導力や専門性の向上に、主体的に取り組む教員
- 園・学校づくりを担う一員として、地域等とも連携・協働しながら、課題解決に取り組む教員

## 札幌市教員育成指標の活用と効果的な研究・研修による資質・能力の向上

### ■札幌市教員育成指標の活用

「教員育成指標」は、札幌市の教員一人一人の資質・能力の向上を目指して策定したものであり、教員の目指す姿を示しています。

札幌市教員育成指標【教員編】

地域や学校の実態を的確に捉え、柔軟な授業を実践するとともに、同僚に適切な対応をしている。

豊富な経験から身に付けた確かな指導技術等を生かし授業実践をするとともに、同僚に適切な対応をしている。

子どもの育ちの状況から授業を見つめ直し、自らの授業改善を図るとともに、同僚に適切な対応をしている。

- ・管理職及び教員が自身の身に付けるべき資質等を理解し、研修計画を立てる際の参考にしたり、研修を振り返ったりする際の目安として活用
- ・管理職が個々の教員に対して、研修計画に関する助言をする際の参考として活用
- ・各園・学校や教育委員会等が、研修の企画を行う際の目安として活用

### ■校内外における効果的な研究・研修による資質向上

子どもによりよい教育を提供するためには、研修による教員の資質・能力の向上は欠かすことができません。管理職をはじめ、全ての教員が協働して取り組む意識がとても大切です。

「研修案内」や「校内研究・研修の手引」「校内研究・研修のススム」(動画資料)等を活用し、校内外における研究・研修を計画的・効果的に行い、教員の資質・能力の向上を図ります。

#### 【札幌市教育研究推進事業(札幌研事業)】

##### ■今年度の重点1【授業改善】

「分かる・できる・楽しい授業づくりの充実」

##### ■今年度の重点2【人材育成】

世代(キャリアステージ)をこえて結び付く「研究体制」の充実

◇「札幌研事業」を資質・能力の向上のために

春・秋の「研究集会」や「学習会」等を各学校において研修計画に位置付け、専門性を深めるなど、本事業を教員一人一人の資質・能力の向上のために、積極的に活用します。



校内研究・研修の手引と研修案内

## 安全教育

各学校・地域の実態に即した学校安全計画に基づき、**子どもが危険から自ら身を守ろうとする態度や能力を育む体系的・具体的な安全教育**及び、家庭や地域社会と連携した危機管理体制の構築及び登下校時の安全確保を推進します。

### 安全教育の3領域と安全教育推進のための組織活動

安全に関する基礎的・基本的事項を系統的に理解し、思考力、判断力を高めることによって適切な意志決定ができるようにするとともに、実践的な能力や態度、望ましい習慣の形成を目指すことを推進します。

#### 〔生活安全〕

日常生活で起こる事故や不審者等による被害についての危険を理解し、安全な行動等ができるよう指導を徹底

※ SNS に起因する福祉犯罪被害等が増加していることを踏まえ指導する。

#### 〔交通安全〕

様々な交通場面における危険について理解し、安全な歩行や自転車等の利用ができるよう指導を徹底

※ 特に小学校低学年は重傷事故の発生件数が多いことから、様々な機会を捉え、繰り返し指導する。

#### 〔災害安全〕

火災や地震のみならず風水害、竜巻、暴風雪など災害発生時における危険について理解し、正しい備えと安全に行動するための能力を育む教育を推進

※ 学校震災対応マニュアルを活用した学校体制を整える。

#### 〔組織活動〕

- 迅速な家庭への連絡を目的とする緊急連絡システムの構築
- 安全教育や訓練における危機管理対策室や警察署や消防署等の関係機関との連携
- 地域の防犯協会等と連携した登下校時の子どもの安全確保

## 防災教育の推進

防災教育で目指している「**災害に適切に対応する能力の基礎を培う**」ことを念頭におき、関連する教科、総合的な学習の時間、特別活動など学校の教育活動全体を通じた防災教育を推進します。

#### 〔ねらい〕

- 災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにします。
- 危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにします。
- 学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにします。

#### 〔教科等における指導〕

発達の段階を考慮して、関連する教科等における内容の重点の置き方を工夫するなど、学校の教育活動全体を通じて適切に行います。

#### 〔避難訓練〕

災害の際に起こり得ることを想定するとともに、災害の発生時間に変化をもたせ、児童生徒等が様々な場所にいる場合にも自らの判断で安全に対処できるような、実効性の高い避難訓練とします。

例：パートナー校で連携した合同避難訓練の実施。



危機管理対策室作成資料  
(平成25年3月発行)



# 進路探究学習（キャリア教育）

子ども一人一人が将来に希望をもち、生き方や進路について考える「進路探究学習（キャリア教育）」をより一層充実します。小学校段階から、人や社会と関わり、様々な場面で自分の役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割の関係について見だし、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、「自分らしい生き方」と「社会的・職業的な自立」に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成します。



進路探究学習オリエンテーリングにおける専門学校での航空に関する職業体験

## キャリア教育において育む社会的・職業的に自立するための基礎的・汎用的能力

人間関係形成 社会形成能力	自己理解 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
他者理解、コミュニケーション、協力・協働など	自己理解、自律、主体性など	課題意識、計画性、処理能力など	学ぶこと働くことの意義理解、将来設計など

### 小学校段階

#### 低学年

- 助け合って係や当番活動を行い、自信をもってできることを増やします。  
・学級活動など
- 地域で働く人などの様子を理解します。  
・生活科など

#### 中学年

- 協力し工夫しながら係や当番活動を行い、自分のもち味や役割を自覚します。  
・学級活動など
- 地域で働く人の仕事の様子を捉え、その工夫について考えます。  
・社会科など

#### 高学年

- 話し合いを通して、自分の役割や責任、自他のよさを理解します。  
・学級活動など
- 働くことの大切さや苦勞が分かり、自分の将来と今の学びとの関連を考えます。  
・総合的な学習の時間など

### 中学校段階

- 自分の興味・関心などの個性を理解し、将来の生き方、働き方等を考えます。
- 将来の職業生活との関連の中で、現在の生活におけるマナーやルール、学習の必要性や大切さを理解します。
- 体験等を通して、勤勞の意義や働く人々の思いを理解します。  
・「進路探究学習オリエンテーリング」への参加



進路探究学習オリエンテーリングパンフレット（令和2年度）

### 高等学校段階

- 主権者としての自覚を含む社会の形成者として主体的に参画する意識を高めます。
- 社会や地域と連携した体験的な学習や社会参加の取組において、主体的・試行的な体験を通して、生き方や将来について考えます。  
・進路探究セミナー（高1）  
・職場体験学習（高1～2）  
・高大連携事業 等



生徒参加型で行われた進路探究セミナー（令和元年度の様子）

教育課程編成の手引（小学校編・中学校編）の特別活動において、活用例を掲載しています。

- 特別活動を要として
- 各教科・科目等の特質に応じて
- 活動を記録し蓄積する教材等（いわゆるキャリア・パスポート）を活用して

#### <各学校における取組例>

- 特別活動 学年や各行事等の目標や振り返り（学級活動・ホームルーム活動）、ボランティア活動 など
- 総合的な学習（探究）の時間 地域の見学、社会人講話、職業調べ、職場見学、職業体験 など
- 道徳科 勤勞、社会参画、公共の精神、相互理解、寛容、個性の伸長 など
- 各教科等【保健体育科】団体競技で仲間大切さやルールの大切さを知る など  
【外国語科、外国語活動】相手に配慮しながら主体的なコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける など  
【社会科公民的分野】職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善などについて学ぶ など
- その他 教育相談、進路相談 など

## 人間尊重の教育

全ての教育活動において基本的人権を尊重するとともに、一人一人が自他の生命を尊び、互いにかけてえのない人間としての尊厳や個性、多様性を認め合い、あらゆる偏見や差別をなくし、支え励まし合う温かい人間関係の中で、心豊かにたくましく生きようとする態度を育む人間尊重の教育を推進します。

### 「人間尊重の教育」の推進に向けた三つの視点

学校教育においては、あらゆる教育活動を通して、女性、子ども、高齢者、障がいのある人、アイヌ民族、外国人、インターネットによる人権侵害等、子どもにとって身近な事例を取り上げ、以下の三つの視点から人間尊重の教育を推進していくことが重要です。

視点1 校種間の連携による連続性のある人間尊重の教育に向けた取組の推進

視点2 教師自らの人間尊重の意識の向上

視点3 子ども自身が自分を振り返り、人間尊重の意識の高まりに気付く手だての構築



#### ■「札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例」(裏表紙参照)の理念に基づいた指導の充実



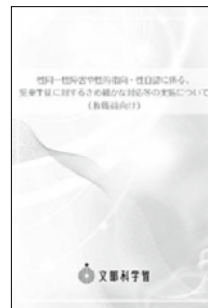
- 人権感覚を醸成し、いじめを未然に防止するなどの指導の充実
- ピア・サポートなど、子ども同士が支え合い、助け合う取組の充実
- 教職員向け研修資料を活用した校内研修の推進



子どもの権利ハンドブックを活用した授業

#### ■性的マイノリティ※に配慮した教育の充実

- 性的マイノリティの子どもが身の回りにいることを前提とした、温かい人間関係づくりの推進
- 相談支援体制の整備など、全ての子どもが安心して学校生活を送るための学校におけるきめ細かな支援の充実

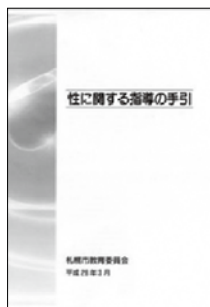


教職員向け研修資料(平成28年4月)

#### ■性に関する指導の充実

- 「性に関する指導の手引」(平成28年3月発行)の活用や、デートDVの講演会の実施等、発達の段階に応じた互いを認め合う態度を育成する指導の充実

※「性に関する指導の手引」手引は札幌市公式HPに掲載しています。



性に関する指導の手引(平成28年3月)

## 人間尊重の意識を育む学級経営学校づくり

#### ■民族教育の推進

- アイヌ民族の歴史や文化等を尊重する態度を育成する指導の充実
- アイヌ教育相談員の学校派遣やサップロピリカコタン、ウポポイ等を活用した体験的な学習の推進
- 「アイヌ民族の歴史・文化等に関する指導資料-第6集-」(令和2年3月発行)を活用した授業の推進



アイヌ民具の活用

※性的マイノリティの κατηγοリーを表す言葉に「LGBT」があります。「LGBT」は Lesbian(同性を好きになる女性)、Gay(同性を好きになる男性)、Bisexual(同性も異性も好きになる人)、Transgender(体の性に違和感をもつ人)の頭文字をとった言葉です。また、LGBTを支援する人々はアライ(ALLY)と呼ばれています。

## 国際理解教育

我が国の伝統と文化を大切にし、世界の人々の多様な生活や文化を理解し尊重する態度を養うとともに、世界の平和に貢献し、国際社会で信頼と尊敬を得るにふさわしい資質を育成する国際理解教育を推進します。

### ■外国語教育の充実（札幌市英語教育改善プランの推進）

小・中・高等学校の学習指導要領の理念を実現するため、札幌市英語教育改善プランに基づき、以下の取組を通して児童生徒が主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育成します。

#### ■「札幌CAN-DOスタンダード」の活用

○小・中・高等学校の学びを円滑に接続するため、「英語を使って何ができるようになるか」を示す学習到達目標の札幌モデル版「札幌CAN-DOスタンダード」を参考にして、各学校で学習到達目標を作成・活用します。

#### ■外国語教育における「小中一貫した教育」の推進

○小学校と中学校が指導方法や評価方法等についての情報交換、交流、連携した学習到達目標や指導計画の作成等に取り組み、円滑な学びの接続を図ります。

#### ■英検 IBA（RL）の活用（中学校全学年）

○自らの英語力を総合的に発揮する機会を通して伸びを実感するとともに、新たな目標をもち、英語を学ぶ意欲を高めます。

#### ■言語活動の充実

○コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を児童生徒が理解し、英語で互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を充実します。

#### ■外国語指導助手（ALT）の活用

○児童生徒が生きた英語に触れる機会を一層充実するため、ALTの効果的な活用を図ります。

#### ■ICTを活用した外国語授業の推進

○指導者用デジタル教科書、1人1台端末を併用し、情報収集や整理、やり取り・発表などの言語活動において活用します。

### ■異文化理解の深化

外国の方々と子どもたちの交流等、体験的な活動を充実させ、我が国の伝統と文化の理解とそれらを大切にする心情の育成や、世界の多様な文化を受け入れ、尊重しようとする資質・能力を育成します。



国際交流を通して、自分たちの住む札幌や日本の魅力を紹介する小学生

### ■平和に関する教育の充実

○自ら平和な社会の形成に参画する資質や態度を育成するため、戦争体験者の講話や平和へのメッセージ作成など、児童生徒の自発的な参加による活動の推進

○平和な国際社会の実現を目指す上で必要な知識や理解を深めるため、各教科、道徳科、特別活動等における、「平和に関する学習資料」（札幌市・札幌市教育委員会編）等を活用した学習の推進



HP「札幌市平和バーチャル資料館」



平和に関する学習資料  
（平成 25 年 3 月発行）

## 札幌市民憲章

わたしたちは、時計台の鐘がなる札幌の市民です。  
元気でたらしき、豊かなまちにしましょう。  
空も道路も草木も水も、きれいなまちにしましょう。  
きまりをよくまもり、住みよいまちにしましょう。  
未来をつくる子どものしあわせなまちにしましょう。  
世界とむすぶ高い文化のまちにしましょう。



(昭和38年11月3日制定)  
(昭和61年6月6日一部改正)

## 札幌市平和都市宣言

戦争のない平和な世界を築くことは、人類共通の願いです。  
この切なる願いにもかかわらず、平和に対する脅威、特に核兵器の脅威から、人類は今なお自由ではありません。  
私たちは、戦争こそ地球環境を破壊する最大のものであり、平和にまさる市民福祉はないとの考えのもとに、人類がひとしく平和のうちに暮らせる世界が実現されることを願っています。私たち札幌市民は、日本国憲法がかかげる平和の理念に基づき、非核三原則を守ることを誓い、信義と公正を重んずる全世界の市民と相携えて世界平和の実現を望みつつ、ここに札幌市が核兵器廃絶平和都市であることを宣言します。

(平成4年3月30日)

## さっぽろ地球環境憲章

前章（総論） わたしたちは、四季折々の美しい自然と豊かな文化を次世代へ伝え、地球と札幌のより良い環境を創造する札幌の市民です。

- 1章（自然環境） 豊かな水やみどりを守り、育むまちをつくります。
- 2章（省資源・循環型社会） 資源をむだなく使い、ごみの少ない循環型のまちをつくります。
- 3章（エネルギー） エネルギーの消費を減らし、自然エネルギーを活用するまちをつくります。
- 4章（消費活動） 環境に配慮した製品や食材を、進んで利用するまちをつくります。
- 5章（都市環境） 環境への負荷が少ない交通網を活用するまちをつくります。
- 6章（教育・学習・人づくり） 環境保全について学び、行動するまちをつくります。
- 7章（地球的視点と平和） 地球環境の改善に寄与し、世界の平和に貢献するまちをつくります。

(平成20年6月25日)

## SDGs 未来都市

札幌市においては、平成30年6月に「SDGs 未来都市」に選定され、SDGsに関わる取組を推進しています。



○ 未来を想う  
Think Green  
環境首都・札幌

## 札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例

前文（抄）

すべての子どもは、未来と世界へ羽ばたく可能性に満ちた、かけがえのない存在です。  
日本には、平和な社会を築き、基本的人権を大切にする日本国憲法があります。さらに、日本は、世界の国々と、子どもの権利に関して条約を結び、誰もが生まれたときから権利の主体であり、あらゆる差別や不利益を受けることなく、自分らしく、豊かに成長・発達していくことを認め、これを大切にすることを約束しています。  
子どもは、子どもが持つ権利を正しく学び、感じたこと、考えたことを自由に表明し、自分にかかわることに参加することができます。こうした経験を通して、自分が大切にされていることを実感し、自分と同じように、他の人も大切にしなければならないことを学びます。そして、お互いの権利を尊重し合うことを身につけ、規範意識をはぐくみます。

(平成20年11月7日制定)

(平成21年4月1日施行)

### 安心して生きる権利

第8条

子どもは、安心して生きることができます。

### 自分らしく生きる権利

第9条

子どもは、自分らしく生きることができます。



### 豊かに育つ権利

第10条

子どもは、様々な経験を通して豊かに育つことができます。

### 参加する権利

第11条

子どもは、自分にかかわることに参加することができます。